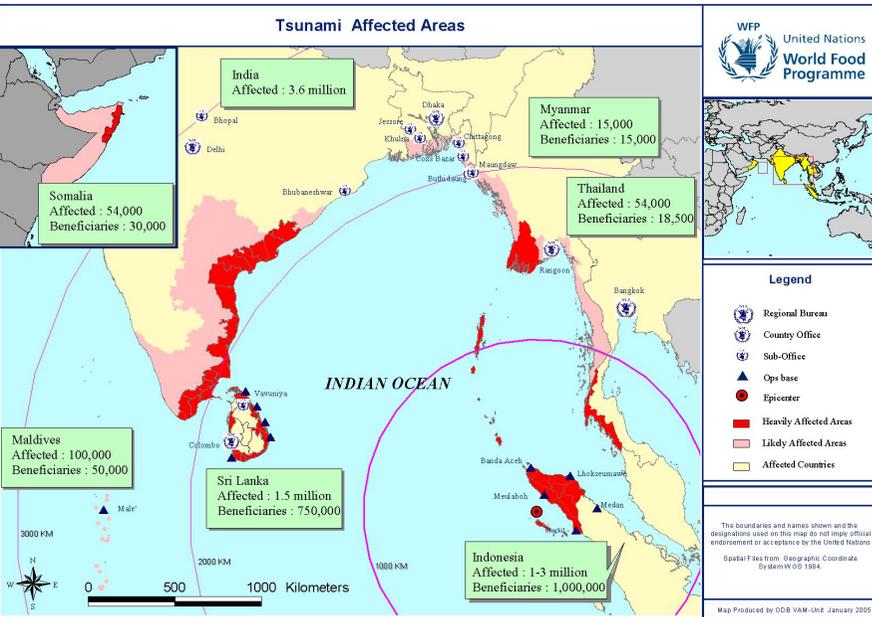


スマトラ沖大地震と津波 WFP 緊急救援活動 食糧援助と援助物資輸送体制の確立



2004年12月26日、インドネシアのスマトラ島沖で発生したマグニチュード9.0の大地震による津波は、スリランカ、インドネシア、タイ、マレーシア、インド、モルディブなどのインド洋沿岸諸国や、アフリカ大陸東海岸に多大な被害をもたらしました。犠牲者の数は調査が進むにつれ拡大しており、地域の被災者の数は数百万人以上に及ぶといわれています。



WFP 国連世界食糧計画では、この度のインド洋津波被災者の緊急援助活動にいち早く取り組み、甚大な被害を受けた各地域の被災状況を把握するとともに、コメ、ビスケット、麺類や飲料水などの配給を行っています。スリランカでは津波発生数時間後にすでに援助活動を立ち上げ、2005年1月8日までに支援目標の75万人に当座をしのぐための2週間分の食糧を配給。WFPの緊急要請に応える形で、日本政府はスリランカの復興プログラムのために拠出していた支援米2,400トン、を、急きょ救援活動に振り返ることを承認し、被災者救援に大いに役立ちました。陸路が遮断されたインドネシアのアチェ州へは食糧の空輸も含めて、さまざま方法で食糧を届けています。

また、WFPでは、橋や道路などの破損により交通手段がない地域に継続的に支援活動が行えるよう、援助物資の輸送力アップのためのロジ部門を強化しています。

津波被災者への緊急食糧援助 (2005年1月-6月の6か月間)

支援対象者: 200万人(インドネシア100万人、スリランカ75万人、モルディブ5万人など)
 援助食糧: およそ17万トン、1億8,500万米ドル
 輸送・通信ロジ: およそ7,100万米ドル
 費用総額: およそ2億5,600万米ドル



津波の影響で破壊し、陸に乗り上げた船体 インドネシア(c)WFP/Michael Huggins



果然とたたずむ人々 インドネシア (c)WFP/Michael Huggins

被災地域への食糧支援を今後も継続的に行うため、WFPは多額の資金を必要としています。WFPでは、スリランカ、インドネシア、モルジブなどインド洋周辺地域の被災者200万人を2005年6月までの6か月間支援し、被災地域の復興につなげる計画。その費用総額は2億5,600万米ドルで、資金面での援助を国際社会に呼びかけています。

WFPは、世界最大規模の人道援助機関として、今回の津波被災者救援活動でも、(1) 援助食糧をより迅速に被災者に届けること、および(2) 援助活動を支える輸送と通信などのインフラづくりの点で、さまざまな人道援助機関の中で中心的な役割を果たしています。